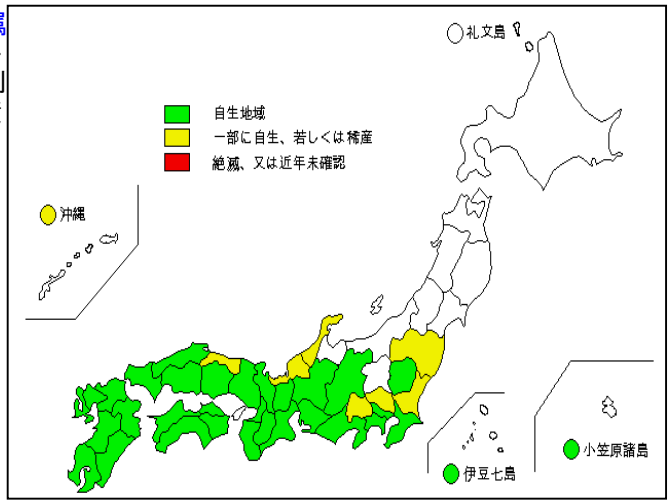
#129

コクラン

Liparis nervosa

コクラン（愛知県奥三河　09.7/11）

薄暗い全国の樹林下に自生する常緑の蘭です。リパリス属は日本でも数多くの種類が自生していますが、本種はバルブが木立性になること、また常緑であることから容易に判別できます。薄暗い杉林から雑木林、竹林など腐葉土の体積する環境を好みます。1年に1バルブ形成しますが、バルブが数年残り昨年の葉も1年間残ることから、球状のバルブを持ち毎年バルブを更新する落葉種のクモキリソウやジガバチソウ、スズムシソウなどとは異なり株繁殖も旺盛なため、数芽～数十芽単位の個体群で点在します。比較的大型になり、1枚10cmほどの大きな葉を2枚展開し、バルブの高さも10cmほどになります。中部地方平野部では6月～7月初旬頃にバルブ先端より花茎を伸ばし、褐色のクモキリソウのようないかにもリパリスらしい花を複数輪咲かせます。花色は濃紫色が基本ですが、紫色～緑色までやや変化に富み、軸まで褐色の固体から緑一色の固体まで見られます。



寒冷地を除く全国の樹林下に自生します。

コクランの草姿(愛知県東三河09.03/15)

自生量はそこそこ多く、ラン科の中では比較的出会うことのできる蘭です。しかし、大型のわりには花も地味なため観賞価値はあまり高くはないにもかかわらず、ラン科というだけで盗掘対象にされ、さらに常緑で1年中発見できるため、人目につく場所では盗掘されやすくあまり見かけなくなりました。金沢や福島などの北限自生地では自生量もかなり限られ、たった1回の盗掘被害でも絶滅の危険があるような危うさも秘めています。比較的人間の生活圏に近い低山帯を好むことから、少し田舎にお住まいの方であれば近所の裏山や散歩道、登山道脇でも出会うことができるかもしれません。

Document and photo by LittleFlower 2009

商品価値が低いことから商用生産はされていないため入手は困難です。しかし、野草店や田舎のドライブインなどでは普通に売られていることも多く、束で500円程度の捨値で売られていますが、その全てが盗掘品なので購入はお控え頂きたいです（自らの持ち山から持ってきた方も見えるかもしれませんがそんなのはごく稀です） 栽培自体は容易で風通しの良い日陰に十分な水分を蓄えられる腐葉土などで植え込んでおけば、特別な管理なしで元気に育ちます。但し、冬場の凍結や霜は避けてあげて下さい。　増殖も比較的容易で、自然に株繁殖はしますし、バルブ吹かしもできます。さらには稀に古バルブの頂部から高芽が発生することもあります。結実率も良く、親株やシュンラン、エビネなどの根元に撒いておくと発芽も期待できます。 このように、増やそうと思えばそんなに苦労なく商用生産はできますが、大量に売れる蘭でなければ業者は増やすメリットが無い為手をだしません。それが、悲しいことに野生蘭の盗掘がなくならない大きな原因の一つです。

コクランの群落(愛知県東三河09.03/15)

コクランの群落(愛知県奥三河09.07/11)

近縁種には南方系のユウコクランや伊豆七島に自生するシマササバラン（ユウコクランの地域変種）などがあります。その他落葉性リパリス属としては、クモキリソウ、ジガバチソウ、スズムシソウ、ギボウシラン、ササバランなどがあり、半着生種のフガクスズムシ、クモイジガバチ、着生種のチケイランやコゴメキノエランなども同じリパリス属です。リパリス属は大変種類が多いため、ここで全てを紹介することは割愛させていただきます。また、「大黒蘭」と呼ばれ販売されているものはユウコクランの葉芸品種（斑入りや羅紗葉、狂い咲きなど）です。コクランの変り種もこれに含まれているケースが多いです。

コクランの高芽(愛知県東三河09.03/15)

コクランの花(愛知県奥三河09.07/11)

Document and photo by LittleFlower 2009